

1124

四月八日

第四號

朝鮮密第三五四號

朝鮮人志願兵制度ニ關スル意見具申

昭和拾貳年七月拾日

朝鮮軍司令官 小磯國昭

陸軍大臣 杉山 元殿

首題ノ意見別冊ノ通具申ス

其一、兵備課ニ保答ス

陸軍省兵務局兵備課

陸軍省 12.7.12 兵備課

陸軍省 7/12 兵備課

陸軍省 12.7.12 兵備課

陸軍省 12.7.10 兵備課

陸軍省 12.7.12 兵備課

1125



朝鮮人志願兵制度ニ關スル意見

昭和十二年六月 編製

朝鮮軍司令部



朝鮮人志願兵制度ニ關スル意見

判 決

朝鮮人ニ皇國意識ヲ確把セシメ且將來ニ於ケル兵役問題解決ノ爲メノ
 試験的の制度トシテ朝鮮人壯丁ヲ志願ニ依リ現役ニ服セシムル制度ハ朝
 鮮ノ現状ニ鑑ミ最小限左記諸條件ヲ附隨セシムルニ於テハ成ルヘク速
 ニ創定スルヲ可トス

左 記

一 滿十七歳以上二十歳未滿ノ男子ニシテ現役ニ服スルコトヲ志願シ左
 記諸條件ヲ具備スルモノ

(1) 普通學校卒業又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有シ府尹邑面長ノ保證セ

ルモノ

(四) 朝鮮總督府ニ於テ施設スル志願兵訓練所ヲ卒業シタルモノ

(イ) 志願兵検査ニ合格シタルモノ

ニ採用シタル志願兵ハ概ネ左ノ取扱ヲナスコト

(イ) 當分ノ間歩兵部隊ニ配賦スルヲ本則トシ一部ハ志願ヲ斟酌シテ各
兵科各部隊ニ配賦ス

(ロ) 當分ノ間朝鮮内部隊ニ配賦ス

(ハ) 再服役及下士官志願ヲ許スコト

三 政府ハ朝鮮人ニ對スル教育諸施設及其内容ニ付左ノ諸件ヲ速ニ實施
スルコト

(イ) 朝鮮人兒童全部ノ就學ヲ目途トシ小學校ヲ整備スルコト

(ロ) 小學校教員、教材、教育法其他ノ諸施設ヲ刷新シ特ニ朝鮮兒童ニ

日本精神的教育ヲ振作徹底セシメ「我等ハ皇國日本ノ臣民ナリ」

トノ強キ信念ト夙持トヲ堅持セシムルコト

(ハ) 志願兵訓練所ヲ設置シ現役志願者ヲ收容シ之ニ六月乃至一箇年(

教育期間ニ就テハ)ノ豫備教育ヲ施スコト

(ニ) 前項訓練所ニハ教育ノ爲必要ナル現役將校、下士官ヲ配屬スルコ

ト

而シテ右要員ハ所屬部隊ノ定員外トス

四制度施行後數年ニ亘リ豫期ノ成果ヲ擧クルヲ得サル場合ニ於テハ本

二

制度ノ實施ヲ中止ス

五本制度實行ニ伴ヒ憲兵補制度ヲ廢止ス

理由

朝鮮ノ地理的環境ト其統治ノ成果トニヨリ期待セラレヘキ半島民心ノ翻向カ皇國々防ト密實不可分ノ關係ニアルハ更メテ喋々敘述ヲ要セサル所、特ニ朝鮮民族對日思想ノ健否ト其皇國意識ノ張弛トハ管ニ朝鮮自体ノ防衛上看過スヘカラサル重要問題タルハ勿論、半島カ我對外作戰實施ニ當リ直接背後ノ大兵站地域タルノ使命ヲ負荷セラレアル關係ヲ顧フ時、半島民心趨向ノ善導ハ現下ニ於ケル重要焦眉ノ大問題タルヲ失ハス然ルニ今靜ニ半島統治ノ現況ト之ニ對シ滔々トシテ隱然底流スル朝鮮民族ノ反撥、自棄的思想ノ儼存ヲ看取スルトキ、吾人任ヲ朝鮮ノ防衛ニ承クルモノ斷シテ曩如クカ能ハサルモ

ノアリ、特ニ遠カラズ重大危局ノ勃發ヲ覺悟セサルヘカラサル現下ノ情勢ニ鑑ミ、爲シ得ヘクンハ一面、半島民心ノ善導ニ貢獻スルト共ニ朝鮮ノ防衛ヲ安固ニシ延イテ皇國々防ノ完璧ニ資センコトヲ期セサルヘカラス

而シテ其具體的策案ニ至リテハ固ヨリ多種廣汎ニシテ茲ニ敘述ヲ略スルモ畢竟其目的トスル所ハ朝鮮民族ヲシテ可及的速ニ皇國臣民トシテ皇^蒙讓ヲ扶翼シ奉ル精神的存在タラシムルノ一事ニ歸ス、是ヲ以テ朝鮮人志願兵制度問題ノ如キニ至リテモ其實行ノ方針ヲ此根底ニ置クコトナク單ニ人的資源ノ補足ヲ理據トナシ、甚タシキハ鮮人平等權獲得熱ニ迎合セントスルカ如キ淺薄ナル御都合主義ニ墮スルカ

如キハ斷シテ探ラサル所ナリ

宜シク慎重研鑽以テ皇國及防並朝鮮ノ防衛上聊方モ禍根ヲ將來ニ斷
サハルヘキ方策ヲ立案セサルヘカラス

ニ惟フニ、日韓併合ノ事タル蓋シ皇道宣布、天業恢弘ノ天意ニ卒由セ
ルモノニシテ彼ノ外國カ殖民地ヲ擷取地帶化スルヲ目的トスルモノ
ト斷シテ日ヲ同フシテ談スヘカラサルハ勿論ニシテ史實ニ徴シ我ト
同種同族ナル鮮人ヲ眞ノ天孫民族トシテ一如同體タラシムヘキ所以
ヲ如實ニ明示セル劃期的事業タリシナリ然ルニ朝鮮ハ其ノ半島の地
理關係ニ座シ古來日支兩勢力ニ對シ交々追從附和ヲ余儀ナクセラレ
シ關係上國民的氣魄逐次消磨シテ因循姑息事大思想ニ墮シ加フルニ

動トモスレハ權利ヲ叫フニ急ニシテ義務觀念ニ乏シキ今日ノ憫然タル
 状態ヲ離スニ至レルモノニシテ觀シ來レハ一掬同情ニ堪ヘサルモ
 ノアリ、茲ニ於テカ其ノ統治ノ根本方針ハ正ニ速ニ昔日ニ於ケル眞
 ノ日本人ニ還元セシメ名實共ニ朝鮮ヲシテ皇土ノ一部トシテ内鮮一
 如ク天業恢弘的天孫民族タラシムルヲ以テ目的トセサルヘカラス
 之ト同時ニ在鮮内地人ヲシテ宜シク朝鮮ヲ以テ墳墓ノ地トナスノ決
 意ト飽ク迄モ皇國精神ヲ堅持スル「朝鮮人」タルノ雅量ヲ把持セシ
 メサルヘカラス、若シ夫レ在鮮内地人ハ飽ク迄内地人ニシテ獨リ朝
 鮮人ノミヲ日本人タラシメントスルカ如キハ畢竟片務的處置タルノ
 識ヲ免レス、是ヲ以テ速ニ戶籍法ヲ朝鮮ニ施行シ朝鮮永住内地人ヲ

シテ名實共ニ朝鮮ニ在籍セシメ對國家的義務ヲ朝鮮ニ於テ履行セシ
 ムルノ處置アルコト必要ナリ否レハ現下鮮人有識者ハ固ヨリ一般農
 民ニ至ル迄半島在住内地人ヲ且シテ一ノ腰掛の出稼者トナシ衷心ヨ
 リ進ンテ融合和樂ノ途ニ就カンコトヲ庶幾セサル現狀ヲ打開一掃ス
 ルコト至難ニシテ内鮮一如ノ實現亦百年河清ヲ待ツニ等シキノ憾ナ
 キ能ハサルナリ、深ク思ハスンハアルヘカラス
 朝鮮統治ノ根本方針ニ關シテハ概ネ前述ノ如シト雖、其ノ實行ノ爲
 ノ諸政策ニ關スル意見ニ至リテハ別ニ總督府ニ提示スルコト、シ以
 下單ニ首題志願兵制度問題ニ對シ特ニ關係アル朝鮮人ノ精神陶冶法
 ニ就キテノミ説述セントス

三、抑、兒童ノ精神教育ハ家庭ノ様ト學校ノ教育ト互ニ緊密ナル連絡ヲ保持シツ、懇切丁寧ニ實施スルコトニヨリ始メテ其貫徹ヲ庶幾シ得ヘシ然ルニ現在家庭ニ父タリ母タルノ鮮人ハ過去ノ怠惰遊逸の生活ト被壓迫的の雰囲気ノ裡ニ只單ニ今日ヲ過スニ急ナル存在ニシテ子弟教育ニ任スル素質ヲ備ヘス日韓併合後四半世紀ニ亘ル總督政治期間ニ於ケル教育諸施設ハ畢竟スルニ刷新ノ必要ニ迫ラレツ、アル内地教育ノ模倣ニシテ徒ニ形式ニ墮シ教員ノ精神的教養亦甚々低級ナルノ譏ヲ免レス

茲ニ於テカ先ツ教員ノ素質教養ノ向上ヲ計ルヘキ施策ヲ行フヲ先決條件トナシ義務教育制度ヲ普及徹底セシメ學齡兒童全部ノ就學ヲ期

シ而モ日本精神教育ニ重點ヲ傾倒スル如ク改善セサルヘカラス如斯
 シテ教育セラレタル兒童五六十歳ニ達シ家庭ニ主人主婦タル時始メ
 テ家庭教育ニ於ケル兒童ノ皇魂ニ對シ學校教育ト相俟ツテ有效ニ培
 ヒ得ルコトトナルヘシ即チ此際朝鮮教學ノ施設ヲ斷乎改善スル場合
 ニ於テモ向後五十年ニシテ朝鮮ノ皇魂教育始メテ軌道ニ乘リ得ルモ
 ノト考定セサルヘカラス然レトモ此五十年ハ教育行政ノ運用ニヨリ
 半減否更ニ短縮シテ十五年乃至二十年間ニ其目的ヲ達成シ得ル如ク
 努力セサルヘカラス是ニ於テカ庶政一新ノ要内地ヨリ更ニ切實ナル
 モノアリト謂ハサルヘカラス

現行普通學校、高等普通學校ノ名稱ヲ廢シテ小中學校ト合併シ内鮮

共學ノ處置ヲ講スルコトモ亦鮮人精神文化向上ノ爲切要ナル施策タルヲ失ハス

若シ夫レ學齡兒童全部ノ就學ハ智育偏重ヲ來タシ教育亡國ノ弊ニ倣
 アモノナリトノ論議ハ當然内地教育ニモ適用セラルヘキ識ニシテ之
 ニ對シテハ小學卒業者ノ大部ヲ實務教育機關ニ進マシメ高等教育專
 攻者ハ需要ヲ見込ミ年々之ヲ限定スルコトニ依リ解消セシメ得ヘキ
 ナリ

總テ軍隊教育ノ要諦ヲ考察スルニ其主トスル所ハ盡忠報國の皇國精
 神ノ鍛練ニ在リ

而モ之ヲ僅ニ二年間ニ完成セサルヘカラサルハ以テ入營

壯丁ハ皇魂的精神素質ニ關シ既ニ十分教養アルモノタルヲ要ス然ルニ鮮人ヲ内地人同等ノ兵役義務ニ就カシムル爲ニハ少クモ向後十五年乃至二十年ノ日子ヲ要スヘキコト前述ノ如シ特ニ況ンヤ内地壯丁ト雖我國現下ノ家庭及學校ニ於ケル教育制度不十分ナル原因ニ坐シテ精神的教養庶幾ノ點ニ達セサルヲ願フ時朝鮮人兵役問題ヲ決定セシカ爲ニハ先ツ總督府ニ於ケル教育施設ノ劃期的改善ニ伴ヒ内地人ニ比シ更ニ強度ノ精神教育施設ノ實行ヲ先決要件トナシ且愈々兵役法ヲ朝鮮ニ施行スル場合ニ於テ先ツ憲兵制度等ヲ試驗的ニ實施シ漸ク以テ其緒ニ就クノ妥當ナルハ火ヲ踏ルヨリモ隱ナリ

四 前述セシ所ニヨリ鮮人ヲシテ兵役義務ニ服セシムル爲ニハ皇魂的教

育施設ヲ完備徹底セシムルヲ以テ國防上絕對必要條件ト爲ス所以ヲ
察知シ得ヘシ從テ總督府若前述ノ見地ニ基ク教育施設ノ完備ヲ閉却
シ而モ兵役制度ノ採用ノミヲ高唱スルコトアリトセハ是蓋シ時勢ノ
風潮ニ伴ヒ最近兵役義務カ國民的名譽行爲タルノ觀アルニ至リシ結
果一部有識鮮人間ニ「國防ノ負擔ナキ民族ニ愛國心ヲ要求スルハ不
合理ナリ朝鮮人ヲシテ國防ニ任セシムルコソ日本ノ眞ノ國防ヲ全ウ
スル所以ナリ」トノ說ニ禍セラレ其裏面ニ「先ツ兵役義務ニ服スル
コトニ依リ參政權獲得ニ邁進セントスル」伏線的提唱タルヲ想ハサ
ル短見ニ外ナラスシテ所謂鮮人ノ人氣ヲ博セントスル御都合主義的
施策ナリト論斷スルモ決シテ失當ニアラサルナリ殊ニ況ンヤ鮮人ノ

一部ハ兵役問題ニ關スル前述ノ提唱ニ對シ一吾人ノ權利ヲ剝奪シツ
 ツ寧口餘人ヲ戰場ノ消耗品の勞役ニ驅使セントスル此種施策ニ應ス
 ルヲ好マスト叫フ者アルニ鑑ミル時兵役法ノ採用ハ雷ニ人氣迎合
 策タルノミナラス動モスレハ思想惡化ノ原因タルコト絶對ニ之ナキ
 ヲ保シ難キヲ以テ特ニ慎重ナル檢討ヲ加フヘキ所以ナルヲ想ハサル
 ヘカラス然レトモ今回南總督ノ提唱セル志願兵制度案ハ一面ニ於テ
 教育施設ノ改善向上ヲ伴ハシムル^{モノタレ}ヘキコト當然ナルノミナラス一般
 兵役法ノ施行ニ先タツ段階的準備施策ニシテ而モ志願者ニ限り之ヲ
 採用スル本案ノ實施ハ前述兵役ニ對スル朝鮮現下ノ通念上名譽義務
 ナリト思惟スル者ノミヲ服役セシムルコトトナルヲ以テ彼等人進取

的意氣ニ更ニ拍車ヲ加ヘ朝鮮統治ノ向上ニ資シ得ルノ利益アルヘキ
ハ看過シ得サル所ナリ
斯クシテ幸ニ鮮人ノ氣分ヲ一新セシムルコトヲ得ハ朝鮮防衛上ニモ
亦貢獻スル所少カラサルハ論ヲ俟タヌ
最近當局ニ於テ認定スル兵員資源ノ不足ニ對シ營軍ハ身体検査合格
例規中ノ身長ノ制限ヲ更ニ緩和スルコトニ依リ優良ナル多數ノ兵員
ヲ獲得シ得ヘキ検査場ノ實例ニ基キ直チニ贊同シ能ハサルモノナリ
ト雖鮮人壯丁ヲモ徵集スルコトニ依リ兵員資源ヲ益々擴大シ得ヘキ
ハ理ノ當然ニシテ施設宜シキヲ制スルニ於テハ本問題ノ採用カ國防
上裨益スル所アルヘキハ勿論ナリ

故ニ此際速ニ前述ノ皇魂精神教育ニ關スル現下ノ缺陷ヲ芟除シ尙且
今後ノ實行ヲ有效適切ナラシムヘキ方策ヲ斷行セラルルニ於テハ將
來ニ於ケル兵役問題解決ノ爲ノ試驗的施設トシテ此際志願兵制度ヲ
採用スルヲ可ナリト認ム

五以上朝鮮ノ統治並國防的見地ニ基キ志願兵制度ノ採用ヲ是認シ之ヲ
實行スル以上鮮人入隊後ニ於ケル取扱ハ必然内鮮一律平等タラシム
ルヲ以テ其根本方針トナササルヘカラス。苟モ區々タル理由ニヨリ
差別的態度ヲ以テ之ニ臨ムカ如キハ斷シテ排除セサルヘカラス否サ
レハ本制度ノ採用ハ寧ろ害アリテ益ナキニ終ルヘシ

此ヲ以テ志願者ノ資格ハ内地人ト齊シク滿十七歲以上二十歲未滿トシ且入隊後資質ヲ備フルモノニ對シテハ下士官志願及再服役ヲ許スコトトスルヲ要ス

但前述セシ如ク一般鮮人志願兵ハ其教養ニ於テ内地人壯丁ト著シキ軒輕アルヘキト國語ノ常用者少キ現況トニ鑑ミ普通學校卒業又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノニ限定シ以テ内地人ノ教育程度ト略均衡ヲ得シムルヲ要ス又鮮人壯丁ヲ内地人同様直ニ入營セシメンカ從來ニ於ケル其生育ノ環境ト普通學校ニ於ケル精神教育ノ不完備トニ基キ到底内地人ト互シテ教育ヲ受クルコト困難ニシテ返テ軍隊内部ニ於ケル融和ヲ阻害スル虞アルヲ以テ^{先ツ}必要ナル豫備教育ヲ附與シタル後入營セシム

ルコト絶對必要ナリ

右教育ハ純然タル軍隊教育ニアラス寧ロ精神教育ヲ主体トスル公民教育ナルヲ以テ總督府ノ施設スヘキハ當然ナルト同時ニ一面ニ於テ現役志願者タラシムル者ナルヲ以テ之ニ將校以下助教助手ヲ要スヘキコト亦論ヲ俟タス其定員ハ本然ノ軍隊教育ヲ阻害セサル爲定員外トナスヲ要ス

更ニ餘人壯丁ノ現狀ニ鑑ミ先ツ比較的教育容易ナル歩兵部隊ニ配當スルコトトスルモ教育ノ成果ニ照シ特ニ特科ニ適任ト認メラルル者ニ對シテハ志願ニ依リ各兵科各部隊ニ配賦スルノ餘地ヲ存スルヲ適當トス

六以上ノ如ク嚴選ヲ加ヘ更ニ徹底セル軍隊教育ヲ實施スル以上之ヲ完全ニ遂行セル除隊者ニ對シテハ總督府ニ於テ就職ヲ保證シ朝鮮人壯丁ヲシテ喜ンテ兵役ヲ志願セシムル外除隊者ヲシテ正業ニ安ンシ以テ一般朝鮮人ニ對スル儼表模範トナリ社會善導ノ一助タラシムルコト必要ナリ

七此クノ如クシテ志願兵制度ヲ創始スト雖本制度カ其根本精神ニ於テ義務ノ負荷ナルト同時ニ一面權利ノ附與卽朝鮮人ノ精神的自負心ニ培ヒ延イテ國防並統治上ニ好影響ヲ及ホサシメントスルモノナルヲ以テ一度制度實行ノ經驗ニ依リ鮮人ノ思想動向ヲ原因トシテ或ハ內鮮融和ヲ阻害シ或ハ軍隊教育上看過シ得サルノ缺陷ヲ發見シ又ハ除隊

后ニ於ケル行動等ニ關シ豫期ノ如キ成績ヲ收ムルコト能ハスシテ反
ツテ反對ノ結果ヲ招來シ又ハ萬一定員ヲ充足スルニ足ラサルカ如キ
不振状態ヲ見ル場合ニ於テハ本制度ノ實施ヲ中止スルヲ要ス

尙参考ノ爲

一、朝鮮民族思想變遷概要

二、日蘇開戦ニ對スル朝鮮ノ觀察

三、朝鮮人ノ經濟狀態概観

四、朝鮮兒童就學狀況

ヲ添附ス

朝鮮民族思想變遷概要

朝鮮民族ハ古來漢民族、滿洲民族及大和民族ノ爲或時ハ征服サレ或時
 ハ其領民トナリ或時ハ屬邦民トナリ獨立ノ體面ヲ完全ニ保持シタルコ
 トナシ從テ民族ハ自主獨立ノ氣概ニ乏シク依賴心多ク懨懨ニシテ天意
 人與ニ依存スルノミニシテ自ラ難局ニ處シテ民族的運命ノ開拓ニ努力
 スルノ氣魄モ無カリシハ歴史ニ明ナルトコロニシテ近世ニ於テモ彼ノ
 文錄慶長ノ役ニハ明ノ大ニ專ヘ日清ノ役ニハ清ニ依存シ日露戰爭ニハ
 露ニ傾キ日韓併合後ハ或ハ米英ニ或ハヲ利用シテ我カ羈絆ヲ脫セントセリ此ノ
 如ク朝鮮民族カ專大主義思想ニ墮落シタルハ其地理的環境ト四隣ニ強
 國ヲ有シタル爲累次強者ノ壓迫侵襲ヲ被リタルニ内ニ之ヲ反撥スルノ
 實力ヲ缺キタルニ因ルヘク此風潮ハ三千年ノ歴史ヲ經タルモノニシテ

之ヲ根本的ニ芟除スルハ容易ノ業ニアラサルナリ

爾テ日露戰役後日本勢力ノ半島侵入ニ憐焉タリシ朝鮮民族ハ排日思想ヲ高調シ事毎ニ反對ヲ稱ヘ反抗的氣勢ヲ揚ケ隱然其勢力ヲ涵養シ居タルカ帝國ノ韓國併合ニ會シ悲憤慷慨其極ニ對シ朝鮮軍隊ハ暴徒ト化シ全鮮的ニ武力平定ノ必要ヲ見ルニ至レリ暴徒鎮定後ト雖民族的反感ハ強盛ニシテ陰ニ陽ニ反日的策動ヲ繼續シタルカ偶々歐洲大戰後米國大統領「ルーズベルト」ノ提唱セル民族自決主義ハ強ク朝鮮人ノ民族意識ニ拍車ヲ加ヘ獨立ノ氣運ヲ増進セリ加フルニ米國系宣教師ノ煽動ト天道教ノ策動トニ累セラレテ大正八年李太王殿下崩御ヲ機トシ獨立萬歲騒擾事件ヲ勃發セリ

萬歲事件ハ上海及東京ニ於テ畫策セラレ全鮮ニ波及シ鎮定ニ三ヶ月ヲ

要シタルカ當時全鮮各地ニ憲兵、警察官配置セラレタルニ拘ラス民心全ク爲政者ヲ離レタル結果一人ノ内通者モナク事前ニ發見スルヲ得ザリキ

然レトモ騷擾ハ頼ミタル列強ノ支持ヲ得ス何等朝鮮民族ヲ利スルコトナキノミカ却テ各國ヨリ朝鮮民族劣等視セラルルノ結果ヲ招來シ朝鮮民族ノ期待ハ全ク裏切ラレ強米頼ムニ足ラス民族自決ノ行ハレ難キヲ覺リ民族主義ノミヲ以テシテハ到底獨立ノ目的達成困難ナルコトニ想到セリ於是其策動ハ逐次左傾的傾向ヲ帶フルニ至レリ

然レトモ騷擾事件後長谷川總督辭任シ齋藤總督就任シテ所謂文化政治ヲ布クヤ之ヲ目シテ萬歲騷擾ノ所得ナリト誤信シ全鮮ニ亘リ青年同盟、道友會等ノ民族的結社擴大シ一層獨立運動ヲ鼓吹セリ即チ内ニハ總督

政治ヲ中傷シ日本帝國ノ國際的微弱力並國力ノ貧弱及大和民族ヲ劣惡ナリト誹謗宣傳シ愚民ヲ煽動シ外ニ在リテハ滿洲、上海、沿海州、支那、米國在住ノ同志ト相結ビ事端醸成ノ機ヲ窺ヒツツアリタリ

昭和四年偶々全南光州ニ學生事件勃發スルヤ忽チ全鮮ニ波及シタルカ當局ノ彈壓ニヨリ平靜ニ復シ青年同盟及檀友會ハ解散セリ

右民族的兩結社ノ解散ハ善化ノ爲ノ解散ニアラスシテ惡化センカ爲ノモノナリキ即チ農民同盟ハ共產主義ヲ奉シテ結成セラレ農民ノ共產化ヨリ惹イテハ總督政治ノ根本的破壞ヲ企圖セルモノナリキ

於是昭和六年ニハ左傾思想ハ漸次學生、勞働者、農民ノ間ニ浸潤シ休業、罷業、小作爭議、官廳襲撃、租税不納同盟等頻出セルカ總督府ノ徹底的彈壓ヲ受ケ稍々衰微セル觀ヲ呈セリ同年滿洲事變勃發スルヤ鮮

内兵力激減シタルト國際聯盟ノ會議ニ於ケル帝國ノ情勢不利ナルヲ見
 ルヤ日本ノ敗滅ヲ冒信セル朝鮮人ノ思想大ニ動搖セシモ帝國ノ態度強
 硬ニシテ著々トシテ滿洲國ノ平定ヨリ建國作業ニ進展シ殊ニ軍事的ニ
 於テハ熱河ノ聖戰等人ノ心膽ヲ奪フモノアリタルト米國ノ對日態度舊
 態ヲ改メタルニ敏感ナルト國際聯盟ノ無力ニシテ頼ムヘカラサルヲ知
 リ列國各々其内情ニ苦ミ其廣言ノ一トシテ實現セシメ得サル實情ト歐
 洲ノ政治的動向今ヤ東亞ニ力強キ干涉ヲナシ得サルヲ看取シ今ヤ東亞
 ニ於テ日本以外ニ頼ルモノナキヲ如實ニ感得セシメラレタリ
 斯クシテ熱河作戰遂行後ヨリ帝國ノ滿蒙政策禮讚ニ豹變シ恰モ事變前
 ヨリ同政策ニ協調シアルカノ如キ態度ニ出テ或ハ國防獻金ニ或ハ皇軍
 慰問ニ或ハ軍隊ノ送迎ニ進ンテハ國防婦人會ノ創立又ハ入會ニ或ハ防

護國ノ結成等内地人ニ追隨シ其歡心ヲ需ムルト共ニ朝鮮人亦日本人ナ
リトスル立場ニ於テ滿洲國內ニ於テハ勿論朝鮮ニ於テモ其政治的ニ教
育的ニ又産業的ニ其地位ヲ向上セント圖ルニ至レリ

之ヲ要スルニ滿洲事變前ニ於テハ日本帝國ノ實力ヲ輕視シ在鮮五十萬
ノ内地人カ戰勝ノ餘威ト差別的待遇トニヨル優越感ヲ以テ朝鮮人ニ臨
ムト彼等亦被壓迫民族ナルカノ如キ歪曲セル感情トハ内鮮人間ヲシテ
犬猿モ畜ナラサシムルモノアリタリ之ヲ經濟的ニ見ルモ鮮人ハ内地
人ニ土地モ職業モ奪ハレ只管搾取ノ材料ニ供セラレツツア貼トナシ内
地人ヲ目シテ資本主義的經濟侵略者又ハ吸血鬼ノ如ク思惟シ内地人ヨ
リ劣等視セララルル爲不俱戴天ノ仇敵ノ如クニ感シ呼フニ倭奴ヲ以テセ

然ルニ滿洲事變勃發後ハ在滿鮮人カ皇軍ニヨリテ救済セララルアリ皇軍ノ恩威併行ノ事實鮮内ニ報道セラルルヤ内鮮人精神融和、親善ノ氣分大ニ醸成セラレ内鮮協力以テ滿蒙問題ノ解決ニ乘リ出サントスル萌芽ヲ見ルニ至レリ而モ關東軍及滿洲國官憲ニ於ケル鮮人官民ノ重用等ハ内鮮人融和協誦上大ナル效果ヲ齎シツツアリ

三 日蘇開戦ニ對スル朝鮮人ノ觀察

朝鮮人ハ内外ノ事情ヨリ日蘇開戦ハ時期ノ問題ニシテ不可避ノモノト思惟シアルモ其際日蘇何レニ歸屬スルヲ有利ナルヤニ就テハ滿洲^州事變勃發當初ニ於テハ大ニ迷ヒ或時ハ陸軍ノ國防宣傳ニ朝鮮人ノ協力奮起ヲ云々スルヤ直ニ日本陸軍ニ勝算ナキ爲ニ朝鮮人ノ協力ヲ要望スルモノナリト判断シタルカ如キコトアリタルモ最近帝國々運ノ隆々タルヲ

見テ歐露ニ於テハ格別ナルモ極東ニ於ケル日本軍ノ戰勝ハ疑フノ餘地ナカルヘシト愚惟スルモノ多ク此際蘇聯ノ力ニ頼リ反日的行動ヲトルノ愚ナル所以ヲ認識セルモノト判斷セラレ

然レトモ日蘇開戰ノ際關係ナキ鮮人カ内地人ト區別セララルコトナク同時ニ蘇聯航空機ノ空襲下ニ損害ヲ被ルハ忍ビ得サルトコロナリト洩ラスモノアリ又以テ彼等ノ心情ノ一面ヲ物語ルモノカ

三 朝鮮人ノ經濟狀態概觀

朝鮮産業ハ李朝積年ノ弊政ニ依リ疲弊其極ニ在リシカ日韓併合以來四半世期ヲ經其間官民ノ努力ニ依リ漸ク趨フテ發達シ殊ニ近年ハ内外ノ好影響ヲ受ケテ躍進ノ一途ヲ辿リ其生産額ニ於テ始政當時ニ比シ農産ハ四倍強ノ十億圓ニ近ク畜産ハ三倍餘ノ四千萬圓ヲ越エ林産ハ七倍餘

ノ一億萬圓ヲ越エ水産ハ大正四年ノ五倍一億三千萬餘圓ニ上リ礦産ハ十倍餘ノ一億ヲ突破スル等實ニ顯著ナル發達ヲ見ルニ至レリ然レトモ朝鮮總戶數四百一萬戶中三百一萬戶ハ農民ニシテ實ニ全人口ノ八割ヲ占ム

而モ其ノ農民中自作ハ二割弱自作兼小作二割強ニ過キスシテ小作五割、被傭者及火田民等一割ニシテ其ノ生活狀態ハ一般ニ貧賤困窮ノ狀態ニ在リ

四、朝鮮兒童就學狀況

(一) 緒言

現行朝鮮教育ハ大正十一年四月一日ヨリ施行セラレ從來ノ內鮮人教育ニ關スル差別ヲ撤廢シ朝鮮人教育ノ程度ヲ向上シテ内地人教育及朝

鮮人教育會ヲ一會ノ下ニ統一シ其制度組織ノ上ニ於テモ施設ノ實際ニ於テモ内鮮人同等ノ精神ヲ徹底セシメンコトヲ期セリ

唯朝鮮ノ特殊事情トシテ國語ヲ常用スル者ト然ラサルモノトノ教育ハ其言語、風俗、習慣ヲ異ニスル關係上多少ノ差異ヲ設ケ普通教育ニ於テハ教育機關ヲ異ニスルコトトシ内地兒童ハ公立小學校ニ朝鮮兒童ハ之ヲ普通學校ニ收容セシムルモ家庭ノ事情修學ノ便宜其他將來ノ生活上ノ必要等特別ノ事情アルモノニ付テハ兩者相互ニ入學シ得ルノ途ヲ開カレアリ

而シテ朝鮮教育上留意セル諸點左ノ如シ

一 國民的性格ノ涵養

國語ヲ常用セサルモノニ對シ國民タルノ性格ヲ涵養スルノ點ニ付テ

ハ全教科目ヲ通シ最も留意セルトコロニシテ尙帝國臣民タルノ自覺、
 道德的觀念ノ涵養等ニ付テハ特ニ其重要性ヲ認メ國體觀念ヲ明徹
 ニスルコトニ力ヲ致セリ

ニ國語ノ普及

ニ勤勞的訓練

四思想ノ善導

(二) 普通學校

(1) 修業年限ハ六年ヲ本体トシ土地ノ狀況ニヨリ四年又ハ五年トナスコ
 トヲ得シムル外大体ニ於テ小學校ト同一ナリ但シ左ノ諸點ハ稍ト異
 ツ異ニス

(一) 國語ノ修得ヲ重要ナル教育科目ノ一トシタルコト

- (一) 朝鮮語ヲ必修科目トナシ漢文ヲ隨意科目トス
- (二) 歴史ニ就テ朝鮮ニ關スル事項ヲ稍ト詳ニ教授ス
- (三) 公立普通學校ハ府(第二部特別經濟)郡島學校費ヲシテ經營セシメ尙私立ヲ認ムルコトトシ大正八年三面一校増設計畫ヲ立テ大正十一年ニ之ヲ完成シ昭和三年ニハ二面一校ヲ超ユル迄普及シタルカ昭和四年ヨリ八ケ年間ノ豫定ヲ以テ一面一校ノ割合ニ達セシムヘク計畫シ毎年百二十校内外ヲ増加シ昭和十一年迄ニ公立普通學校一〇一八校ヲ増加セリ(十一年末迄ニ計畫殘餘五十六校)
- 之カ爲公立普通學校未設置面ハ六五ケ面ヲ殘セリ
- 更ニ昭和十二年ヨリ十三年計畫ヲ以テ公立普通學校入學志願者ノ凡ソ全部ヲ收容スル方針トシ下ニ第二次朝鮮人初等教育機關普及擴張計

設立

本計畫完成（昭和二十二年）ノ際ニハ學齡兒童（男女合セテ）ノ五割ヲ就學セシメ得ルニ至ルヘシ

然レトモ前述ノ普通學校ノ普及ハ經費ノ關係上現在ハ鮮人ノ就學志

願ニ應スルノ餘力ナキ爲修業ニケ年程度ノ簡易學校（府又ハ學校費

一ノ設立ヲ認め更ニ之カ増設普及ヲ圖ルニトキリ之カ爲昭和十年

度末ニハ簡易學校數五百七十八校児童三萬五千六百六十五人ニ上レ

リ

附表第一

普通學校入學狀況 (男女合計)						
年度別	入學志願者數			入學者數		
	朝鮮人	内地人	計	朝鮮人	内地人	計
昭和七年	127,634	54	127,688	103,866	53	103,919
昭和八年	181,057	60	181,117	148,105	58	148,163
昭和九年	229,536	81	229,617	163,198	79	163,277
昭和十年	281,026	161	281,187	173,396	158	173,554
昭和十一年	374,524	74	374,598	149,227	73	149,300

1160

附表
第二

普通學校卒業者狀況 (男女計)

年度別	卒業者数	卒業者狀況						
		官公署就職	教員	銀行會社	家事	青靄警	其他	死亡
昭和六年度	65,496	511	23	2,292	46,519	15,032	1,068	71
昭和七年度	67,844	588	64	2,451	47,243	16,307	1,112	79
昭和八年度	72,131	665	56	3,527	47,853	18,897	1,070	63
昭和九年度 (比較)	80,518 (100)	868 (11)	67 (0)	4,314 (5)	53,528 (67)	20,544 (25)	1,096 (2)	101 (0)

1161

附表第三

普通學校卒業者、上級教育就學狀況									
年度	区分	卒業者 總數	右總數、内上級教育就學者數						
			中等學校 (師範科)	實業學校	實業補 習學校	小學校 普通學校	各種 學校	其他	計
昭和六年度		65,496	4,514	2,042	715	6,292	1,172	247	15,032
昭和七年度		67,844	4,381	2,141	894	7,624	1,122	145	16,307
昭和八年度		72,121	4,634	2,540	673	9,899	952	199	18,879
昭和九年度		66,518	3,167	2,364	597	10,515	913	798	20,544

1162

附表第四

朝鮮男童就學率調査

年次	男子總人口	推定學齡男童	就學男童總數	就學率
昭和11	10,769,916	1,453,939	623,337	42.9%
前年比較	+ 2638,76	+ 47,774	+ 56,695	+ 2.6%

備考

1. 人口ハ昭和十年十二月末現在
2. 推定學齡男童ハ人口ノ13.3%トス
3. 在學男童ハ昭和十一年四月現在

附表
第五

朝鮮男女學童數 (昭和十一年度) 公立普通學校			
區	分	人員	比率
男	童	545,890	100
女	童	135,795	25

附表第六

朝鮮學童(男女合計)半途退學者調			
年 度	退 學 者	總 學 童	比 率
昭和十年度	31,863	681,945	5%
昭和九年度	36,704	605,153	6%
昭和八年度	40,743	533,388	8%
昭和七年度	50,611	488,058	11%

附表第七

内地壯丁、徴兵検査成績調査					
年次	適齡者	受験人員	甲種	適齡者對甲種率	
大正 13	537,357	531,842	180,655	34%	
" 14	531,012	521,991	175,950	33%	
昭和 1	534,355	521,254	184,549	34%	
" 2	597,012	581,307	194,887	33%	
" 3	612,444	568,796	171,744	28%	
" 4	626,141	505,819	178,979	29%	
" 5	631,882	595,505	174,482	29%	
" 6	649,859	619,146	178,355	29%	
" 7	647,110	621,844	174,282	28%	
" 8	655,771	631,099	178,994	27%	
" 9	668,800	641,969	185,432	28%	

附表第八

朝鮮人壯丁數

年次	適齡者	合格率	甲種合格見込
昭和11年	236,938	25%	59,234

備考

1. 適齡者ハ男子人口 $\frac{22}{1,000}$ ヲ採ル
2. 合格者ハ内地ヨリ 2% 低率トス

附表第九

普通學校卒業者甲種合格見込数増加状況					
年次	官公私立普通學校	卒業生数	甲種合格見込数	昭和十一年に於ける年齢	壯年階級年次
昭和16年	校	{62,337}人	15,584	{9}才	昭和23年
" 11	2,382	58,634	14,658	14	18
" 10	2,248	63,979	15,995	15	17
" 9	2,130	55,900	13,970	16	16
" 8	2,017	50,570	12,642	17	15
" 7	1,893	47,151	11,788	18	14
" 6	1,776	46,474	11,618	19	13
" 5	1,641	46,178	11,544	20	12
" 4	1,502	47,762	11,940	21	11
" 3	1,425	49,751	12,438	22	10
" 2	1,339	46,359	11,584	23	9
大正15	1,260	32,650	8,102	24	8
" 14	1,189	22,829	5,732	25	7
" 13	1,109	14,107	3,527	26	6
" 12	958	8,391	2,098	27	5
" 11	810	4,138	1,034	28	4
" 10	677	1,214	303	29	3
" 9	561	14,396	3,599	30	2
" 8	484	13,942	3,485	31	大正15
" 7	464	13,590	3,397	32	14
" 6	443	12,088	3,022	33	13
" 5	418	10,706	2,676	34	12
" 4	400	9,535	2,383	35	11
" 3	384	8,470	2,117	36	10
" 2	354	6,371	1,592	37	9
明治45	331	5,297	1,324	38	8

備考 大正九年以前ハ尋常四年制ヲ採用シ
 大正十年以後ハ尋常六年制ニ依ル卒業生ヲ調査シ
 尋常四年程度ノ學校卒業者ハ表外トセリ